

吉川昌伸：ウルシ花粉の同定と青森県における縄文時代前期頃の産状

植生史研究 第14巻 第1号 p.15-27, 2006年1月

Masanobu Yoshikawa : Identification of *Rhus verniciflua* Stokes Pollen
and its occurrence around the Early Jomon Period in Aomori Prefecture.

要旨 木材化石および種実化石の研究から縄文時代前期以降に日本にウルシが生育していたことが明らかにされてきた。しかし、木材や果実は利用のために遺跡内に搬入される可能性があるため、遺跡周辺でのウルシ生育については明らかではない。ウルシ花粉はウルシ属の他種と彫紋にわずかに違いがあることが記載されてきたが、識別の根拠は明らかにされていなかった。そこで、日本産ウルシ属6種の花粉について光学顕微鏡を用いた花粉形態の詳細な観察と彫紋の画像解析を行った結果、ウルシの彫紋がほぼ類似した形状と大きさの網目から構成されていることから、同属の他種と識別できることが明らかとなった。この結果に基づき、青森県の縄文時代前期頃の3遺跡の堆積物でウルシ属花粉を再検討した結果、ウルシは放射性炭素年代で約5600年前のクリ林の出現期以降の堆積物から産出し、約4500年前のクリが衰退し、トチノキ林が拡大する時期以降の堆積物では確認されないことが明らかとなった。

キーワード：青森県，ウルシ，花粉形態，縄文時代前期